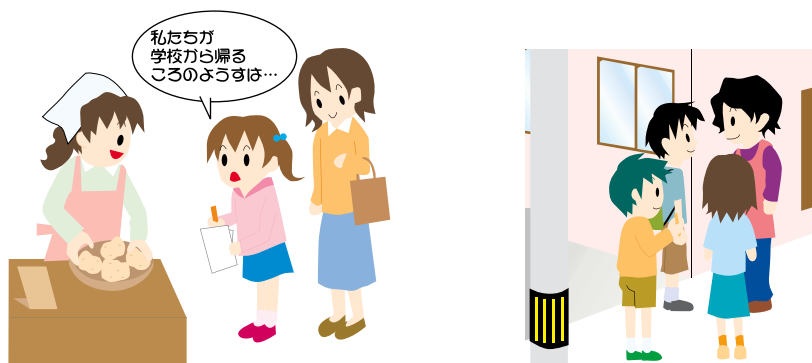


Step4 インタビューをしてみましょう。

地域の危ない場所は、お店の人や交番の警察官等に聞いてみましょう。同じ場所や道路でも、時間や曜日によって様子が変わりますから、子どもが行動する時間帯について特に聞いてみましょう。インタビューするときは、相手の都合を聞いて、礼儀正しく行いましょう。

子どもにインタビューさせることによって、危険回避能力の一つである「コミュニケーション能力」が身につく他、地域の人と顔見知りになることで、子どもの安全度はぐっと高まります。

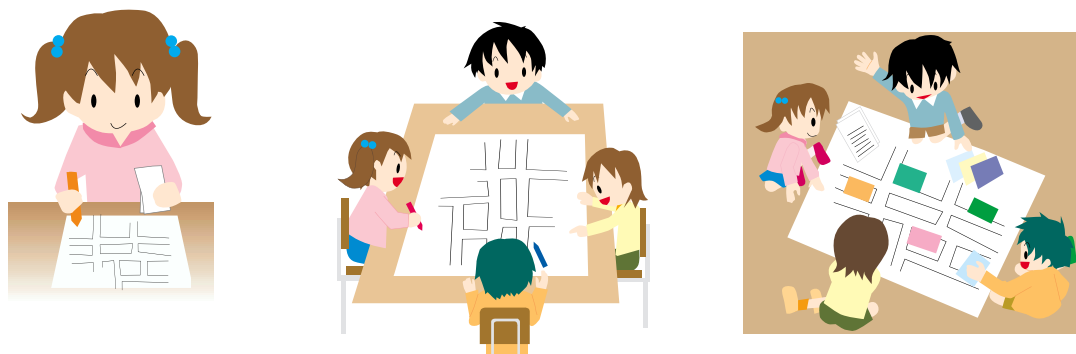


Step5 集めた情報をもとに、地域安全マップを作ります。

町歩き（フィールドワーク）から帰ったら、Step1で描いておいた地図に、集めた情報を描き込みます。（※Step1を省略して、ここで地図を描いてもいいです。）

路上駐車が多い場所には車のイラストを入れたり、樹木の多いところには木を描いたりすると、分かりやすいマップができあがります。また、危険な場所だけではなく、子ども110番の家など安全な場所も描き込みます。

そして、それぞれの場所に写真を貼っていくと、より分かりやすいマップになります。



Step6 地域安全マップの活用。

地図ができたら、子どもと改めて危険な場所の確認をしましょう。塾や友だちの家、公園などに行くときの道を、相談して決めておきましょう。また、分かったことは友だちにも教えてあげましょう。

もう一つ大切なことは、マップの更新作業です。街は日々姿を変えます。例えば、工事中的場所、新たな建物、そして子どもの行動範囲が変わることもあります。定期的に街をチェックして、地域安全マップを更新していくことも大切です。



お問い合わせ先 熊本県環境生活部交通・くらし安全課
(くまもと犯罪の起きにくいまちづくり県民会議事務局)
電話 096-333-2293
<http://www.pref.kumamoto.jp/bouhan>

19 環 交安

④ 005

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています